

開倫塾の塾生は学校や地域の図書館を使いこなそう
— 「調べ学習」や辞書・新聞・本の利用は図書館で—

開倫塾
塾長 林明夫

Q 1 : なぜ図書館を使いこなしたほうがよいのですか。

A : 2020年度から小学校・中学校・高校・大学の教育が大きく変わります。そのため、授業課題について自分から進んで学ぶ「調べ学習」が増えるからです。

Q 2 : どういうことですか。

- A : (1)今までは、先生のお話を聞いて教科書を理解し、試験に備えて教科書の内容を身に着け、よい点数を取ればよかったですよね。
- (2)これからは、事前に出された課題について授業前に自分から進んで自分の力で「調べ学習」をし、自分の考えをまとめてから授業に出る。
- (3)授業では、各自が意見を出し合って議論をする。いろいろな考えがあることを知って、自分の考えを深める。自分にとって不足するところはさらに調べ、考えをまとめる。このような授業が多くなるからです。これを「アクティブラーニング(積極的な学び)」といいます。
- (4)ですから、授業前の「調べ学習」と、授業後のさらなる「調べ学習」が欠かせないのです。
- (5)では、どこで「調べ学習」をしたらよいのか。辞書や新聞、様々な本や資料、それにパソコンがそろっている「学校の図書館」と「地域の図書館」が一番よいと考えます。

Q 3 : エッ、図書館ですか。あまり行ったことはありませんね。

- A : (1)「開倫塾の塾生」の皆様にお勧めし、また、お願いしたいのは、2019年は「学校の図書館」と「地域の図書館」に1年間かけて慣れ親しみ、十分に使いこなせるようにして、2020年度からの授業に備えて頂きたいということです。
- (2)ボーッとしたまま2020年度に学校に行くと、何が何だかわからないうちに「アクティブラーニング」が始まってしまいます。どこで何をどのように調べたらよいかわからないのに、多くの教科で課題が次から次に出されますので、ちょっと大変なことになります。
- (3)まずは、時間があったら、毎日、少しの時間でも「学校の図書館」に行ってみる。本棚や資料のコーナーをよく眺めてみて、どこに何が置いてあるかを知ることが第一です。また、「地域の図書館」に週に1～2回行ってみる。ここでも、どこに何が置いてあるのかを知ることが第一です。

(4)次に、「学校の図書館」や「地域の図書館」の「利用の仕方」という「パンフレット(説明書)」を手に入れて、隅々までよく読む。「ルール」さえ守れば、学校や地域の図書館は、「ドラえもん」の魔法の「ポケット」のように「情報の宝庫」であることがよくわかりになると思います。

Q 4 : そうですか。行ってみようかな。もし、図書館の使い方がよくわからなかったら、どうすればよいのですか。

A : (1)よい質問ですね。そんなときには遠慮しないで「図書館員」、つまり、「図書館司書」の先生に質問してください。

(2)「図書館司書」の先生の仕事は、皆様も含め、すべての「利用者の相談役」です。何でも質問してくださいね。きっと素晴らしい「お仕事」をしてくださいますよ。

(3)ただし、何でも質問してOK といいましたが、質問するときには自分でよく調べてからにしましょうね。自分の力で調べるのが第一。わからないときだけ質問させて頂きましょう。

Q 5 : 図書館で利用したほうがよいものは何ですか。

A : (1)「辞書」や「事典」が第一です。どこの学校や地域の図書館にも、家庭には普通ないような色々な種類の「辞書」や「事典」が利用者全員で使うものとして「常備(じょうび)」、常に備えてあります。

*わからない「ことば」や「事柄」があったら、図書館の「辞書」や「事典」で必ず調べる。調べたことは忘れないようにノートやカードに書き写し、繰り返し読み返して正確にその内容を身に着けましょう。1日10語を目標に「辞書」や「事典」で調べ、その内容をノートに書き写し、すべて正確に身に着けることをお勧めします。

*「ことばは力」です。1日10語、1年365日で3650語、3年で1万語のことばが身に着きます。これは力です。

(2)学校や地域の図書館で利用すべきものの第二は「新聞」です。家庭で購読していない新聞を1日30分から1時間、一面からじっくりと読む。1つの新聞だけではなく、2～3種類の新聞を一面から丹念に舐めるように読む。

*新聞を読んで身に着く力は、「自分で考える力」「批判的思考(クリティカル・シンキング)能力」です。

*なぜなら、新聞を中心とするジャーナリズムは「社会の番犬(watch dog)」といわれるからです。社会におかしいことがあれば、これは問題だとワンワン吠えて、読者に社会の問題点を知らせるのが、新聞の「社会的使命(ミッション)」だからです。

(3)学校や地域の図書館でなすべきことの第三は、「本格的な読書」です。備え付けの本を図書館の中で、または、一定の期間貸し出して頂き、じっくりと腰を落ち着け、時間をかけて読むことをお勧めします。

*「読書」によって身に着くのは、「思慮深さ」「省察力(自分自身を振り返る力)」です。これぞという本は、一生かけて5回、6回と繰り返し読むことが読書のコツです。

Q6 : 最後に一言どうぞ。

- A : (1) 塾生の皆様の多くは、高校を卒業後に大学や大学院、短期大学、専門学校、専修学校に進学なさると思います。高校卒業後に仕事に就いたり社会的な活動をなさる方も多いと思います。
- (2) 大学にとり、「大学図書館」は大学の心臓部といわれるほど大切な場所です。また、仕事や社会的な活動をする際に、自分の力で調べたり考えたりすることは極めて大切です。そんなときに「地域の図書館」ほど役立つものはありません。
- (3) 小学生、中学生、高校生の間に、学校や地域の図書館に慣れ親しんで自分のものとして使いこなせるまでになってから、高校卒業後も「大学図書館」や「地域の図書館」を最大活用しましょう。図書館の活用は、塾生の皆様の「成功の実現」に必ず役立ちます。
- (4) 開倫塾の「自己学習スペース」で毎日 4～5 時間、夕方から夜 10 時まで「ハードな長時間自己学習」に励んでいる受験生の皆様は、入試が終了した直後から、学校や地域の図書館で、今度は自分でテーマを決めて勉強や読書をしてみてください。「長時間の自己学習」が身に着いていますので、驚くほど勉強や読書がはかどり、人生が楽しくなり、充実しますよ。是非、ご挑戦を。

2019 年 1 月 4 日（金）林明夫記